

Then we should call this a sacred place

なら、ここは聖地ではないか

会期：2024年02月27日（火）～3月10日（日）/月曜休廊
 時間：11:00～19:00（最終日は17:00まで）
 会場：gallery G（広島市中区上八丁堀4-1公開空地内）
 協力：三次市立塩町中学校、田幸町内会連合会、広島市立中央図書館、中国新聞社
 助成：公益財団法人 野村財団
 ウェブ：<https://gallery-g.jp/>

【プログラム】

オープニングトークイベント：「なら、ここは聖地ではないか」

2024年2月28日（水）18:00-19:00 | 予約不要・参加費無料
 登壇者：菅亮平（美術作家）/ 松波静香（gallery G ディレクター）

ワークショップ：「広島市内の被爆門柱を訪ねて」

2024年3月2日（土）13:00-15:30 | 参加費：1000円（定員7名）
 講師：菅亮平（美術作家）/ 松波静香（gallery G ディレクター）

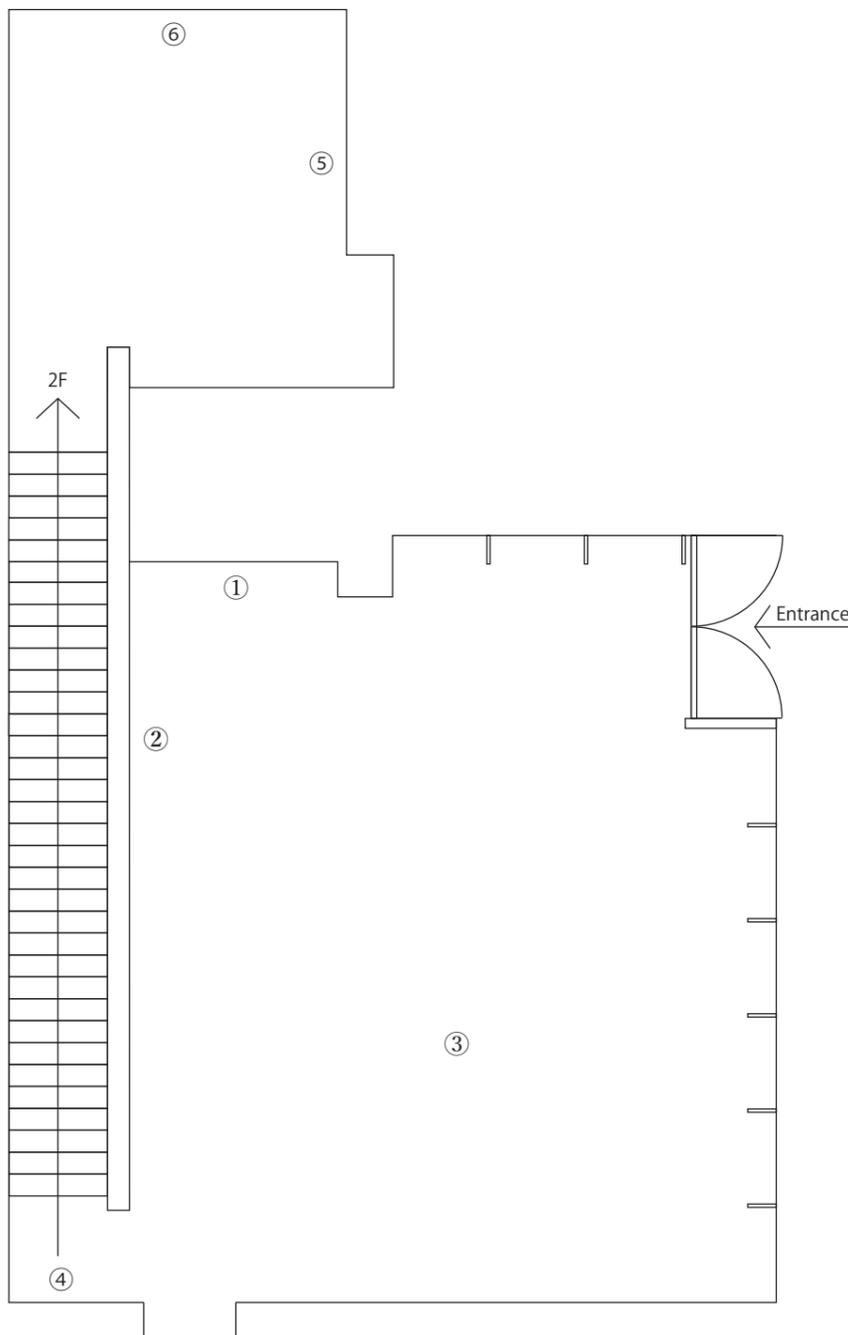
ラウンジトークイベント：「アートにおけるテーマとしての「ヒロシマ」」

2024年3月9日（土）17:00-19:00 | 予約不要・参加費無料
 モデレーター：菅亮平（美術作家）、松波静香（gallery G ディレクター）

【作家紹介】

菅亮平（かん りょうへい）。美術作家、1983年愛媛県生まれ。2016年に東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士号（美術）を取得。2019年にミュンヘン国立造形美術アカデミー修了、マイスターシューラー号を取得。「空虚（Void）」をめぐる思考をもとに、多様なメディアを横断的に扱いながら作品制作に取り組み国内外で発表する。2020年より広島市立大学講師、2021年よりSLAP総合ディレクター。

アーティストウェブサイト：<https://ryoheikan.com>



【開催趣旨】

gallery Gでは、2024年2月27日（火）より3月10日（日）まで、広島を拠点に活動する美術作家 菅亮平の個展「Then we should call this a sacred place / なら、ここは聖地ではないか」を開催します。

「何もない・空っぽ」を意味する「空虚（ヴォイド）」を主題とした創作に取り組んできた菅は、2013年以降ドイツに滞在し、世界大戦の悲劇や喪失を空白の空間をもって指示する、戦後西洋美術史におけるヴォイドの表象の系譜に関心を寄せてきました。

2020年に広島に移住した菅は、世界で初めて原子爆弾が投下された広島歴史性を踏まえて、アジアの戦後美術史における世界大戦への応答に関心を向け、2021年には原爆ドームの第5回保存工事で使用された塗料による絵画作品《K 15-30D》の制作を開始するなど、想起の芸術の今日的な可能性を追求しています。

2023年には、広島県立美術館と縮景園連携企画「記憶の庭」において、戦前の縮景園に設立された国内最初期の私立美術館である観古館や、園内の蔵に保管され被爆による焼失を免れた能道具から着想を得た一連の作品を発表し、歴史に対するイメージと慰霊の在り方を幅広い表現メディアを通して問いかけました。

菅は広島県立美術館の展覧会に際して、旧広島藩主浅野家の大名庭園である縮景園に1913年に開館した観古館を、広島近代の結節点となる文化的エポックとして注目しました。1945年の原子爆弾投下により完全に焼失した観古館ですが、正門の石柱4本は被爆による破壊を免れました。そのうちの2本の石柱は1971年に広島県三次市大田幸町の塩町中学校の正門として移設され、現在も保存されています。これらの石柱は、かつての観古館の存在の痕跡を今に伝える唯一の文化遺産と言えます。

本展は、石柱の精巧な3Dデータに基づく原寸大レプリカを中心に構成され、原子爆弾投下後から三次市に移築された経緯を追跡調査した内容について、関連資料と関係者のインタビュー映像を通して発表します。観古館の門柱の来歴とその保存に係る地域の人々の姿を見つめることで、広島近代史の伝承の意義について再考を促します。

会期中には、オープニングトークイベント「なら、ここは聖地ではないか」、ラウンジトークイベント『アートにおけるテーマとしての「ヒロシマ」』を開催し、本展で菅が設定した主題とアプローチについて多角的な議論を共有する場を設けます。また、ワークショップ「広島市内の被爆門柱を訪ねて」では、ギャラリー付近の幾つかの被爆門柱をめぐる、広島に残された世界大戦の記憶を参加者とともに見つめ直します。

同門柱に関する情報をお持ちの方はぜひ忌憚なくギャラリーまでご一報をください。

【出展リスト】

① 観古館門柱 AR

2024年 / 1分36秒
 制作協力：橋本健祐（3Dデータ制作）

② 塩町中学校門柱説明板

1971年頃 / 45×60cm / 鉄板
 三次市立塩町中学校蔵

③ 観古館門柱（右）原寸大マケット

2024年 / 48×48×320cm（門柱）、180×180×20cm（展示台） / ミクストメディア
 制作協力：橋本健祐（3Dデータ作成）、株式会社スギタニ（立体加工）

④ 観古館被爆門柱（塩町中学校）

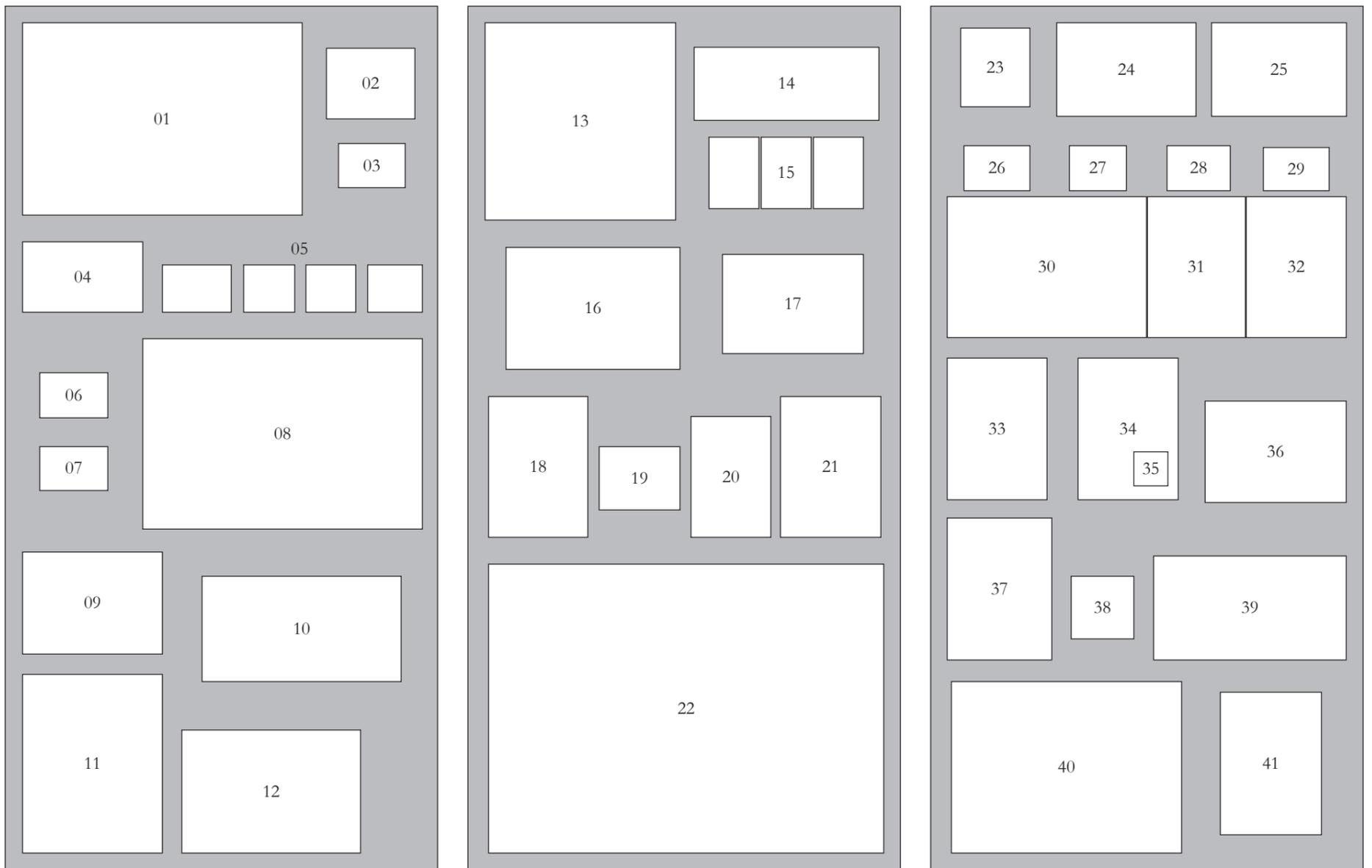
2024年 / 45×30cm / インクジェットプリント
 制作協力：橋本健祐（撮影）

⑤ 観古館被爆門柱の標柱設置ドキュメンタリー（※撮影不可）

2015年 / 12分29秒
 提供：田幸郷土史友の会

⑥ ドキュメントボード（※撮影不可）

2023-24年 / 91×182cm 3枚 / パネルに資料、絵葉書、写真など
 制作協力：松波静香（リサーチ）、橋本健祐（撮影）
 資料提供：三次市立塩町中学校、田幸郷土史友の会、広島市立中央図書館、広島平和記念資料館、中国新聞社



【左パネル】

- 01 広島縮景園全圖 / 大正 4 年 (1915 年) / 広島市立中央図書館蔵 / 撮影：菅亮平
- 02 広島縮景園 浅野泉庭 / 戦前 (年代不明) / 手彩色絵葉書
- 03 広島浅野泉庭正門 / 戦前 (年代不明) / 絵葉書
- 04 観古館全景写真 / 榎田直太郎著『観古館』 / 大正 5 年 (1916 年) / 国立国会図書館デジタルコレクション
- 05 観古館図面 / 榎田直太郎著『観古館』 / 大正 5 年 (1916 年) / 国立国会図書館デジタルコレクション
- 06 広島浅野泉庭観古館 / 戦前 (年代不明) / 絵葉書
- 07 観古館陳列 / 戦前 (年代不明) / 絵葉書
- 08 縮景園正面、南方から北方に望む / 1945 年 11 月頃 / 識別番号: SA063-2 / 撮影：川本俊雄 / 提供：川本祥雄 / 広島平和記念資料館蔵
- 09 広島観古館 / 大正四年 ((1915 年)) / 絵葉書複写 / 提供：絵葉書資料館
- 10 縮景園地図 / アクセス：2024 年 2 月 25 日 / © OpenStreetMap contributors
- 11 泉邸 / 情景日時：昭和 8 年頃 (1933 年) / 識別番号：WH01-039 / 作：小野山博子 / 所蔵：広島平和記念資料館
- 12 泉邸内の観古館 / 識別番号：WH11-050 / 作：井野上忠夫 / 所蔵：広島平和記念資料館

【中パネル】

- 13 1945 年 (昭和 20 年) 9 月 7 日の広島の航空写真 / 識別番号: STIMSON007 / 撮影：米軍 / 寄贈：スティムソン・センター / 作成：広島市立大学・橋本健佑 / 提供：広島平和記念資料館
- 14 井伏鱒二『黒い雨』 / 1970 年 / 新潮社 / 表紙
- 15 井伏鱒二『黒い雨』 / 1970 年 / 新潮社 / 196-198p
- 16 中国新聞社 城戸良彰取材ノート / 2015 年 7 月 30 日 / 提供：城戸良彰
- 17 [戦後 70 年 県北から] 塩町中被爆石柱 標柱で由来記す 縮景園→三次 郷土史友の会「反戦叫ぶとりに」 / 中国新聞 2015 年 7 月 31 日 金曜日 県北 地方 26p / 提供：中国新聞社
- 18 [縮景園の 8.6] [石柱漂流] 県北の地で生徒見守る / 中国新聞 2005 年 7 月 29 日 金曜日 タ -7 / 提供：中国新聞社

- 19 塩町中学校 正門風景写真 / 塩町中学校卒業アルバム「思い出」昭和 61 年度 (1986 年) / 提供：塩町中学校
- 20 塩町中学校 正門・校舎風景写真 / 塩町中学校卒業アルバム「思い出」昭和 49 年度 (1974 年) / 提供：塩町中学校
- 21 折口幸子著「被爆門柱」 / 掲載：『真樹 広島平和希求号』2013 年 8 月 11p / 提供：藤井清美
- 22 被爆門柱 (右) オルタ画像 / 2023 年 11 月 / 作成：橋本健佑

【右パネル】

- 23 本校の沿革 / 掲載：塩町中学校 令和五年度 学校要覧 / 提供：塩町中学校
- 24 被爆門柱 (駐車場側から) / 2023 年 11 月 / 塩町中学校駐輪庫 / 撮影：橋本健佑
- 25 被爆門柱 (坂道側から) / 2023 年 11 月 / 塩町中学校駐輪庫 / 撮影：橋本健佑
- 26 藤井清美氏 (塩町中学校校長) インタビュー風景 / 2023 年 / 撮影：橋本健佑
- 27 塩町中学校 1971 年度卒業生 同窓会 / 2022 年 / 提供：塩町中学校
- 28 福井英憲氏 (元縮景園職員) インタビュー風景 / 2023 年 / 撮影：橋本健佑
- 29 梶田博治氏 (田幸郷土史友の会) インタビュー風景 / 2023 年 / 撮影：橋本健佑
- 30 藤井清美氏インタビュー原稿 / 2023 年 11 月 / 聞き手：菅亮平
- 31 福井英憲氏インタビュー原稿 / 2023 年 11 月 / 聞き手：菅亮平
- 32 梶田博治氏インタビュー原稿 / 2023 年 11 月 / 聞き手：菅亮平
- 33 田淵実夫 ウィキペディア / アクセス：2024 年 2 月 25 日
- 34 田淵実夫「浅野図書館回顧 (1)」 / 広島市立 浅野図書館だより 6 月号 '74 No.212
- 35 田淵実夫「なら ここは聖地ではないか」引用英訳メモ / 2023 年 / 作成：菅亮平
- 36 中国俳壇の元選者 田淵 実夫氏 / 中国新聞 1991 年 3 月 9 日 朝刊 30p / 提供：中国新聞社
- 37 三次の被爆石柱 移設の謎を調査 広島美術作家 菅さん 縮景園⇒塩町中 新証言も / 中国新聞 2024 年 2 月 8 日 木曜日 文化 朝刊特集 12p / 提供：中国新聞社
- 38 田淵実夫ポートレート (52 歳) / 「週刊朝日 1961 年 8 月 18 日」 pp32~36 / 週刊談話室「ヒロシマは今も訴えている」 / 朝日新聞社
- 39 塩町中学校地図 / アクセス：2024 年 2 月 25 日 / © OpenStreetMap contributors
- 40 被爆門柱文様 拓本 (右 / 裏側) / 2023 年 / 作成：菅亮平
- 41 塩町中学校 総合的な学習の時間「調査・研究」学習レポート「三次市で生徒見守る石柱」 / 平成 24 年 (2012 年) / 提供：塩町中学校